



目落口へぬける。岩は花崗岩だが、ヌルがついていていやら
 しかった。3段目は登れず、左岸を捲く。

小僧ヶ滝の上は急に平凡となる。杉林の中を細いミゾ状の
 流れとなって流れるだけ。出合から30分遡行し、沢が2つに
 分かれた所で遡行終了とする。 (記・)

[タイム] 出合(6:00)→小僧ヶ滝(6:05)→遡行終了(6:30)

湯の沢(仮称)

1990年9月22日

羽黒川との合流点から遡行開始。小さな沢だが、水はきれ
 いだ。少し遡ると小滝が出てくる。落差が小さいし、スタ
 ス、ホールドが豊富なので、いずれの小滝も簡単に越える。
 5つ目がこの沢最大5mの滝。2条に分かれて流れ落ちてい
 る滝で、その中央部分を登る。滝の中間に直径3cm程の穴が
 ある。最初は別に気にしなかったが、登っていく途中で顔を近づけたらイオウの
 臭いがした。噴気口である。この穴から流れ出る微量の水にもイオウ分が含まれ
 ているのか、岩場がそこだけ白く変色していた。

このあと小滝1つを越えると、古い橋があり、右岸はちょっとした広場になっ
 ている。地図に温泉記号のある所である。昔は温泉宿があったとかで、今でもコ
 ンクリートの基礎などが残っている。その一角に柵で囲った部分があり、中に鉄
 板でふたをした井戸状のものがある。耳をすますと、その内部で水が流れるよう
 な音がしている。ここが温泉の湧出口だったのだろうか。

このあと沢は全く平凡となる。やがてブッシュもかぶさった細い流れと変わる。
 出合から45分遡ったところで遡行終了とする。 (記

[タイム] 出合(6:45)→旧温泉場(6:55)→遡行終了(7:30)

大石沢

1990年9月22日

羽黒川を渡渉して、8:10遡行開始。出合からみた感じは、暗い樹林帯を一気に
 突き上げており、期待がもてそうである。出合すぐに右へ支沢を分けると4mの